指導主体としての保育士・幼稚園教諭のキャリア形成に関する研究（5）
―人生の岐路での心理的葛藤に生じるジェンダー観・人生観・若者文化に着目して―

A study on the career design of the childminder and kindergarten teacher as a guidance agency（5）
－Focusing on a view on gender and life or youth culture emerging in psychological conflict in the face of crossroads of life－

玉木博章

愛知みずほ大学 (非常勤講師)

Hiroaki　TAMAKI

Aichi Mizuho College（Part-time lecturer）

キーワード：保育者；人生；恋愛：キャリア；心理的葛藤.

Keyword：Child care person；Life；Romantic love；Career；Psychological confliction.

１、はじめに

1-1　前稿との連関から

前稿（４）では本研究における解答への道筋をいくつか得た [1)]。１点目は、保育現場の待遇改善と保育者達の肯定であった。G さんの調査からは、パートよりも劣る待遇で働かされ、過重な責任を負う様相が明らかになった。少なくない年長保育者達は、そうした状況を当然であると宗教的に受け入れるであろう。だがそうした認識が多くの潜在保育者を生み出し、やりがい搾取されることを厭わない信者しか保育現場では働けない現状を招いてしまっている。こうした状況に適応しないＧさんやＦさんのよう若者を揶揄する保育者も存在するであろうが、むしろ人間にのみ適応を迫る現状が課題であることも明らかになった。例えば児美川孝一郎は若者の雇用現状に対して、事態の困難さが企業の採用方針の変化と政府の雇用政策（労働力の流動化）によってもたらされているものならば、そうした構造的要因への対処が事態打開の第一歩であり、若者達に雇用の場を保証し、正規非正規問わず働いている者達が背負わされている過酷な労働条件こそ改善されなくてはならないと警鐘を鳴らしている [2)]。加えてそうした社会全体での取り組みを抜きにして、教育の役割や課題だけを強調することは、社会矛盾を教育で始末をつけるかのような構図になってしまい、若者達にこそ学校から仕事への移行の困難さの原因があり、彼らが甘えているから、職業観が未熟だからといった問題認識の転倒さえ誘発してしまう [3)] と注意喚起する。児美川のこうした知見は､学校教育の文脈ではあるが、保育問題にも応用でき、むしろ社会構造や労働環境側に変革を求め、学生を肯定する重要性を示唆する。

また２点目はパートナーを含めた育児や生活に関するジェンダー教育を行うことであった｡例えば向田は、調査全体の約 75％の学生が、いかなる形で再就職するか、もしくはしないかに拘らず結婚や出産での離職を希望していることを指摘している [4)]。こうした保育者の主体的離職は自身のライフキャリア形成上否定すべきことではない。しかし再就職が可能になるように、また辞めなくても済むようなパートナーの支えや、保育者本人の育児観を見なすことで潜在保育者が働く可能性もある。児美川は、キャリアの概念をワークキャリアのみに限定してしまうのは得策ではないとしている。そして子ども達が自らのライフキャリアの主人公になれるような力を育てること、生き方全体の中に働き方を位置づけられるようにすることが、キャリア教育の目的であり、そのプロセスがキャリア発達 [5)] であると提言する。その点を踏まえれば、ライフキャリア

のためのジェンダー教育もこれからのキャリア教育に含まれるべきであろう。

したがって今後保育者へのキャリア支援や授業内容の工夫への発展させていく必要性を鑑みれば、松尾由美の授業内容が有意義なものに見えてくる。松尾は高い離職率を指摘しつつ、保育士の早期離職を防ぐために、デートプランを立てることで予測不可能な自体に対するキャリアプランニング能力を養うというユニークなキャリア教育を発案していた[6]。また情報リテラシーの観点からキャリアプランニング能力を高めるために「良い」という言葉の多様性を学んだり[7]、ワークシートを使って就職先の関する情報を集めて見直したりする授業を発案している[1]。松尾はキャリアプランニング能力を根幹に位置付けていると看取できるが、本稿の最終地点も同様に調査から得られた知見を実践に還元を意図している。

1-2　前稿までから見える問題の所在と本稿の主旨

本研究を通して保育者が仕事を含めた生活全般の中で、何に悩み、葛藤し、何で人生を切り開き、立ち直っていくか、そして何をもって自らの人生の幸福とするのかについてインタビューを重ねてきた。そして特に前稿までの研究（３）（４）では休職、離職、復職、転職といった人生の分岐点にいる保育者に調査を行い、そうした契機に保育者が自らのキャリアをどのように捉えているかを明らかにしようと試みた。それらを鑑みれば、少なくない大学で行いがちな勤労観に偏重したキャリアガイダンスが誤りであることも示唆された。

また研究（３）では、その後Ｅさんは前向きに復職を果たし、「話せたことで色々整理できた。会えてよかった」と語っていた[8]。このことから、こうしたインタビュー調査自体にはナラティヴアプローチによるカウンセリングの効果があったと看取できたが、研究（４）では見られなかったため、本稿ではその点についても検討する必要があるだろう。

他方で研究（４）において調査内容を示した２名は、イマドキの若者である保育者の姿であった。それらによって若者文化論の見地から保育者のキャリア形成を捉え直す必要性も示唆された。特に彼女達の人生観にはジェンダー観、そして占いやアプリといった若者独特の恋愛観が作用していた[1]。そのため、本稿でも岐路に立つ保育者達の心理に若者文化がどのように作用しているかについても分析していきたい。

２、調査の手法と内容

2-1　調査に関する詳細

今回も保育者のキャリア形成での職業観やジェンダー観に関する心理を明らかにするため関西の保育者の女性を対象とした。通例通り、半構造化インタビューの形式を取り、自由な発言を促すためにインタビュアーも適度に雑談を交えている。インタビューイの抽出に関しては知人を辿って行い、本稿では前述した通り、復職を果たした１名へのインタビュー内容を掲載し分析する。調査及び分析を行う上で、対象が関西圏に限られている点、またサンプルの年齢的偏りや無作為抽出ではないという点は考慮すべきである。詳細や質問等は以下の通りである。当然ではあるが本稿執筆に際して、録音と記載の同意を得ることで倫理的配慮をしている。なお、今回のインタビューイは筆者の友人でありラポールが形成されている。休職等で悩んでいる折には何度も相談に乗ってきたが、とてもインタビューに応じられる状況ではなかったため、復職を果たした現在ようやく自己整理がつき、調査に応じてくれた。

実施時期　：2020 年２月
実施人数　：１名
実施対象　：保育者としての勤務経験を持つ者
記録方法　：IC レコーダーを使用（記載同意済）
質問内容　：学生時代の学び、保育者の仕事、キャリア、給与を含めた職場環境。また結婚、出産も含め、今後どのように働いて人生を過ごしたいか語ってもらった。
倫理的配慮：研究の主旨を伝え、論文化することに予め承諾してくれた対象に協力をしてもらっている。また個人が特定できる情報は記載していない。

なお調査内のＴは筆者を示す。分析の際、インタビューイの発言は、ある程度インタビュアーの存在に影響されている可能性も考慮に入れる必要がある。また研究全体の一貫性からインタビューイをＨと記載した。

2-2　20 代Ｈさんに対する調査

Ｈさんは当時 26 歳。英語専攻の４大中退後、テーマパークで働き、それを続けながら専門学校に通い、卒業後 24 歳で保育士として自身が通った私立の園とその系列園で２年勤め、３年目からは公務員となり保育者として勤務した。しかし春先からベテランのイジメに遭い退職。公務員を辞して民間のインターナショナル保育園に勤務している。だが、そこも積年の体調不良の影響で退職予定である。筆者とＨさんは１年前に Twitter の教員アカウントで催されたオフ会を通じて知り合っており、Ｈさんの彼氏と筆者も顔見知りである（2020 年 2 月 14 日 19 半時から２時間程度実施）。

Ｔ：辞めるかもしれない？

H：うん。同じ保育士さんに迷惑掛けるっていうのと、子どもと保護者だよね、一番は。フォローはしてくれるけれども、この仕事だけやってくれたって聞いたら気は使うし、当たり前だけど。でもそこかな。迷惑掛けて掛けられての関係だと思うけども、仕事の継続というか、難しいのかなと思って。資格は資格なので、いつか戻ればいいかなと思ってるけど、今、保育士に戻る必要あるのかどうかっていうのを考える。

T：まず、健康ってこと？

H：うん、そう。考えたかな。

T：もうだって別にさ。すごい思うのは個人が悪い訳じゃないじゃん。H さん個人が悪いわけじゃないじゃん。こうなったのは、そもそも前の園が原因になる。

H：そう、そうなのよ。本当に、そこなのよね。

T：だから、もうやるせないですよね、それは。

H：そうだね。どこに持っていったらいいんだっていう話だよね。怒りをね。

T：ていうか、そこ個人でしょ。

H：そうね。その環境はものすごく良くて、今の園。人間関係もものすごくよくて。

T：仕事内容も？

H：うん。仕事内容も結構前の昔ながらの園だったら、結構アナログで書類にバーッて書いてたのを、結構、簡略化してくれている園なので。

T：それ、何、私立なの、そこは？

H：私立。で、インターナショナルみたいな。

T：どういう層が来てるんですか。

H：うちは完全に月謝っていう学費で貰ってるから、結構富裕層。その月謝が払える人じゃないと来ない。

T：言い方悪いけど、来る人の質はいい訳だよね？

H：必ずしもそうとはいえない。お金持ちであるっていうのは、そうだけれども、お金持ちの親が決して良いとは言えないなっていうのはこの半年で思った。

T：お上品ではないってことなんですか。要は。

H：ウチが英語の園っていうのがあると思うんだけれど、原因として。

T：完全に English 保育なんですか？

H：English 保育です。ただ、日本語にも触れて欲しいから、課外授業として、書道だったり、書き方やったりとか、あと結構、お受験する子ども達が多いから、小学校受験に必要な知育教室だったりとか、あと体操教室だったりとかっていうのは日本語で行われて。また日本のその専門の先生が来て教えるんだけれども。1 人じゃ見切れないところがあって。だから日本人スタッフが、私達職員が週に何回かお手伝いに行くの。だから私も知育教室と書き方に週に 1 回ずつ行ってたんだけども。その時だけなのよ、子どもの日本語が聞けるのが。怖いのが、子どもは家の環境とか、園以外の環境で聞いてる日本語で喋ってる訳であって、それを例えばその言葉が綺麗じゃなかったら、正してくれる矯正してくれる人がいないとそのままなの。だから汚い言葉を使う子はいる。

T：それに対してなんか言ってくるってこと？親が。

H：いや、親は知らないし、それが多分、家庭の環境なんだと思うのね。親が言ってるか、テレビを見せてるか。そうね。でもウチ、延長保育も全てお金だし、その課外授業もものすごい料金がかかるんだけれども、長く預けるためにそこに行かせたりとか。でも、あれもこれもって全部、課外授業取ってても、月の総額いくらになってるんだろうっていう家の子が結構、愛着的なところで、問題があったりだとか。

＜中略＞

T：今の彼は付き合ってって言われたんでしょ？

H：そう。明確な言葉はなかったけれども。その時私は前彼がいて。別れるか別れないかっていうグラグラしてた時期で。そういう相性もうまくいってなかったし。彼、国籍が韓国人だったんだけれども。親戚付き合いをすごく大事にする文化じゃん、韓国。だから、親戚のおじさんにお金に不自由はさせないからみたいなこと言われて。結局私は彼氏と話をつけたいのに、何故彼氏のおじさんと喋ってるのかみたいな状態になったりしてグラグラしてたのが去年の５月６月ぐらい。で、何だっけな。私も結局、３回告白されてるのね、３回ぐらい、彼に。好きっていわれてるんだけれども。

T：すごい誘われてるっていうのは言ったじゃん。ユニバ行こうやみたいな。

H：そう。ただ私、あの人と話弾むと思ってなくて。あと、単純にタイプではなかった。

T：言ってたよね(笑)それは。分かる。

H：そうなのよ。元々私のタイプではなかったけれども。向こうのその感じと、オフ会の雰囲気見てたら、××ちゃんがすごい、彼を気にしてたじゃんか。

T：そうだったね

H：去年の３月はね。あれも私気になってて。

＜中略＞

T：でも、アイツが H ちゃんの方がタイプだっていうのはすごいずっと俺は聞いてたから。奴から。

H：本人が？

T：もう全然。

H：本人が言ってたのか。そう。だから私、結構、覚えてる。1 回、彼とこの日ってなってたのを私、その日も体調不良で。土曜日だったんだけど、４月入ってすぐの土曜日でキャンセルしてしまって。それをめげずにまた誘ってきてくれたんだけど。最初に誘われた所が大阪城、どこだっけ、あれ。ご飯のフェスみたいな。オフ会の時の私を見てて、私が貰ったお土産が

おいしくて、すっごい数もらったの覚えてる？

T：覚えてる。めちゃめちゃそうだね。

H：あれを美味しい、美味しいって食べてたのを多分、見てて。この直線上にいたから全然２次会は喋れてなかったんだけど、こういうの好きなんだろうなって思ってって言われて。今までそんな私、結構食べる方なんだけども、割と、その食べることを否定しない人が好きでね。最初にそういう食べ物の祭典みたいな所に連れていってもらってるから、この人は多分、私が食べても。過去にいたのよ、元彼に。私より食べない人とか、そんな食べんの？みたいな人とか、太ったが？口癖の人がいたから。モラハラみたいなんがいたから、それもあって。それは最初は好印象だったんだけど。その日、全然何を話したか覚えてなくて。あれ、私が気に入ったのは、結局。

T：何がそんなよかったんですか。

H：何だろう。今は私のことを全然、褒めないんだけども、当時はすっごい褒めてくれて、あの時、自己肯定感がだだ下がりだったんだけれども。それを上げてくれたっていうとこと。何が良かったんだろう？結局付き合う人ってめちゃくちゃタイプの人と付き合うと自分が出せなくてすごい緊張するのね私、多分。結局何回か会って、遊んで、すごく素が出せてるじゃないけれども、楽やなって思ったのがそうかな。あの人、すごい笑かしてくれるタイプの人やから。向こうも私が笑ってるの好きっていうのを最初からずっと言ってて。それかな。私、前の彼氏はどっちかっていうと、私が笑わせる側やったんやけど、それがあったのがでかいかな。とにかく褒め方の癖と、あと何やろう。タイプじゃなかったっていうのも結果的に作用してる。

T：逆によかったってこと？

H：うん。

T：でも、だって、付き合う時に確認したんでしょ、いっぱい。何で好きやのって、直に。

H：付き合う時に確認したのは、私が無駄な時間を、何だろう、私が結婚願望あって、向こうがなかったとかだったらしんどいから、私は重いかもしれないけれども、付き合う人とは普通に結婚を意識するって、高校生みたいな恋愛はしたくないっていう話と。私の持病の話を少しして、これからも多々、迷惑を掛けると思うし、気は使わせると思うっていう話、私はその２つは譲れなくて。そしたら向こう、全然、ケロッとしてて。今回、私も転職悩んでて、割と相談するんだけど、結構Ｔ先生、あと、あれから、結構、▲▲先生ともやりとりをするんだけど、▲▲先生とか結構こういう感じで話し込む感じで真面目に相談に乗ってくれるんだけど、彼は、あの人は賢くはない。人間的にじゃなくて、多分学力がないし、語彙力も無いから。ただ、底抜けに明るいんだよね、あの人。めちゃくちゃポジティブなんだよね。だから無理やったら、もう次、次、次、次ってなるって言われて。それに返って励まされたりとかっていうのはあった。前からあった。私が体調悪くても絶対否定しないし。あと体育の先生だけあって、人は見てるから。ちょっと私が歩き方、変か、ちょっと私の口数が減ったとか、そういうので体調の悪さ気づいてくれたりとかはしてたね。病休入ってすぐぐらいだったから、あの時期。助かったのはあったね。あと、単純にあの人の、これは私の共感覚の話になってくるんだけど、名前が綺麗。本名が綺麗なのと。あと、あの図体で私はあの人のことがピンクと黄色に見えるんだけど、そこがかわいくて。共感覚の話も、私は最初したんだけども、多分、本人、全然興味が無いし覚えていない。覚えてなくて、こないだ私だけ寝てしまった日があって。起きて、向こう、どうも長谷川です、とかっていってくるやんか。長谷川じゃないのよ、本名は。そんな茶色い名前じゃないって言ってしまって私。何のことって言われて。行ったじゃん、私って言ったらあれやろ、イメージカラーみたいなやつ。アホの子やな、この子って思うんやけど、それぐらいの方が付き合いやすいのかなって思ってしまう。

T：いい意味であれだよね。別に、バカにしてる訳じゃなくて、できないなって思うよね。すごく関西の子っていう、分かる。うらやましいもん。

H：賢くない訳でないんだけれども、専門のことはめちゃくちゃ詳しいよ、もちろん。もちろんね。だけど、時々、あっ！？て思うことがあるんだけれども、許せるというか、愛嬌というか、何だろうね、あの。

T：それが黄色に見えるんだよ、ちょっと。だから結婚考えられると言えば考えられるんだ。

H：そうなのよ。

T：なんでＨちゃんは結婚したいの？

H：妊娠出産子育てがしたいからかなぁ。あと、ウチは母子家庭だから「お父さん」がいた記憶があんまり無くて。保育園で子ども達のお父さん見てるといいなぁって思ったりして。素敵なパートナーを見つけて、お父さんになって欲しいのもある。子どもパパを取り合いたいし(笑)もちろん、大好きな人が相手っていうのが大前提だけど。家族に憧れてるのかも。

T：なるほど。確かにめちゃくちゃ納得する理由だし、アイツならいいパパになりそうだもんね。本人もだってしたいって言ってんでしょ、多分。

H：彼は絶対いいパパになってくれる。でも、付き合う前に、そこだけ話をしてから、一切そういう話が出てないの。だから、向こうがどう思ってるのかは分からないけれども。

T：転職するじゃないですか、彼は来年。

H：でも、そういうつもりがなかったら、そのまま働いてただろうし。そういうつもりでいてくれてるのかなとは思ってはいる。

T：彼がいなかったらどうだった？この半年間。

H：ちょっとしんどかったかもしれない。

＜中略＞

H：転職を考え始めた時に、単純に資格が欲しいと思った。母が保育士なの。だから単純に子どもとも触れ合ってきてたし、今までその日あった特殊な事例だとか事案だとかをお母さんにポロッと話したら、結構専門的な知識も含めて、返ってきたりするじゃんね。保育士ってそういうとこまで考えるんだと、そういうふうに思って。私、ピアノ弾けるし、子ども好きだし。そういう細かいお絵描きとか、ああいう制作物とか、そういうのも好きだし、ぐらいの気持ちだったの最初。本当に、正直。それぐらいの気持ちで、最初は通信で、仕事も辞めたくなかったから通信で取るけど、お母さんが学校に行った方が絶対にいい、お母さんの経験上、実習もあるし、学校に行った方が絶対に良いよっていわれて。学校探し始めたらハローワーク通じて失業保険とかそういう多分、国の保険、私よく仕組みは分かってないんだけど、とにかくどこからかお金が下りて、学校に行けるシステムがある。結局２年学校に行くっていう前提の下なんだけど、職業訓練校として。そこにお母さんの母校が指定されてたの。見学に行って、正直制服代とあと諸々かかる諸費以外、学費と入学金みたいのは、全部、あと教科書代は自分で出した。だから入学金と学費は免除されるって言うので。

T：家計的にも厳しいっていったもんね、ちょっと。

H：そう。結局それで行くことにしたの、私は。

＜中略＞

T：23 ぐらいまで仕事続けながら学校通ってて。終わって、仕事スパッと辞めて母園行ったんだ？そこの民間で続けなかったのは何でなの、逆に。受けたじゃん、公務員を。受けて、この春のアレみたいなことなってしまったじゃないですか。

H：１年目は母園に勤めて、普通にそこで続けると思ってたけれども。2 年目、同じ法人のとある園が子ども園になると。認定子ども園になって０歳児の保育が始めるんだけれども、誰か来て欲しいっていうふうに言われて。これは最近の保育士の学校の質の話にもなってくるけど、私の同期がとてもじゃないけど、行かせれるような子達じゃなかったっていうのと。この園は私も母園だったし、園長先生も昔からお世話になってたから、保育士になったらここで働くとはずっと思ってたんだけれども。私は、母がいたから何もなかったけれども。

T：何もなかったってどういうこと？

H：中堅の先生がちょっと意地悪だった。だから、30 過ぎぐらい。母はもう 50 近いけど、30 過ぎぐらいの先生が意地悪で。

T：お母さんと一緒に働いてたの？最初。

H：そう、１年は。ただ私は幼児クラス、お母さん乳児の主幹の１個下だから、あの人は。建物が違うから会わないの、全然。職員室でしか。っていう状態で働かせてもらってたんだけども。だから私、１年目は４歳児担任だったんけれど。中堅の先生が意地悪過ぎて、30 代の先生が。その中堅の先生と私達の代の間の人がほとんど残ってなかった。みんな辞めてっちゃってたのね。だから、ポッカリ年齢差があるって状態で私の他に２人新人が入ってきたんだけど、２人共乳児クラスにいたから詳しくは知らないんだけど、お母さんの文句しか聞いてない、愚痴しか聞いてないんだけど。保育の、しかも乳児担当なのに、爪は長いし、髪ものすごい明るいし、まぁ私は髪明るくてもいいと思うんだけども、ウチの１年目の園は駄目だったのね。結構古い、仏教の園だったから。立地も悪かったせいもあって。保育園って大体、立地悪いんだけど。あんまり人も来ないし、その新人さんも来ても辞めてしまってるから、それは園の中の環境の問題にあるんだけれども、辞めてしまってて。最近の保育学生ってみんなピアノが弾けないんだけど、副園長先生がものすごいピアノ上手で、ピアノは絶対試験に入ってたんだけど。私の代から免除されたの、ピアノの試験が。私は弾けるって副園長先生知ってはるけど、他の２人は弾けなかったっていうのがあって。言ったら悪いんやけど、他にお見せするっていうか、異動って飛ばす訳じゃんか、飛ばしてあの園から来た人って言われるのはちょっと恥ずかしい同期だったのね。今もバリバリ２人共働いてるけど、何だかんだ言いながら働いてるけども。お恥ずかしい２人だったと。結局泣く泣く私が飛ばされ、０歳児の担任なったんだけれども。

T：そこで何があったの？

H：パートの先生と折り合いが悪かった。でも今思うとパワハラとかではないんだけど、結構乳児って閉鎖的な空間じゃんか。私、１人担任だったから。０歳児だから１対３で。でも０歳児、３人がワチャワチャするから誰か来てくれるけど。閉鎖的な空間だったし。私が本当に１から作っていかないといけないみたいな状態だったのと、あと給料が下がった、単純に。っていうのがあったのと。１年目の母園で、母園の私、園長先生にすっごいお世話になったから、あっこで働けないなら、わざわざね。あと、これ前置きしてなかった。私、保育の学校めちゃくちゃ成績よかった。

T：でしょうね(笑)

H：だから、どの先生にもものすっごい公立推され

たの。受けるだけ受けてみないって。受けるだけ受けて受かってしまったらそこに行かなきゃいけなくなる。それを蹴ってというか、押し切って母園を受けたから、そこでそのすごい推されたことを思い出して、お母さんも母園でいいの？って。今は安定イコール公務員みたいなとこあるから。公務員の方が安定してるんじゃない？この先って。結構口癖のように言ってたんだけど、私が押し切って母園で働いた、1 年で飛ばされたっていう状況を見てだから、別にここでずっと働くのは。で、まとめると、２年目の園に愛着がなかった私は。ここも好きだったけど、家からも遠かったし。

T：で、受け直したと？

H：受け直した。受かるかなぁぐらいで受け直した。あの年、保育指針が改定された年だったから、受かんないだろうなって思ってたけど。でも改定された年ってことは、改定されたとこ覚えたら、また出る訳じゃんか。狙い目かなぁとも思って。研修も行ってたし、受けたら受かった。

T：だよね。でも、それでアレですからね。

H：そう。

T：女の世界で巧くやれないって言ってたもんね。

H：でもこのままあのまま 2 年目の園で働いてたら良かったなっていう訳でもないの。規模も小っちゃくなったし、1 年目の園より。私、行事ごとが好きだからバーンッて行事やってくれるような園の方が良くて。

T：今の所はいいんでしょ。その人間関係的には。

H：うん。いいし、行事もすごい力入ってるし。

T：どうなの？続ける続けないの話は別として、すごい女の世界の人間関係に苦しんでた訳じゃん。それを全然、一新するような所に来てどう？実際は。

H：今の園は本当にみんながネイティヴの考えに引っ張られてると言うか、良い意味で年功序列みたいなのが無いのね。そのいい意味で遠慮とか謙虚とかそういう言葉も無いから、考え方も無いから。結構、バシバシ意見を言ったり言われたり。でも２年目で折り合い悪かったパートの先生は陰口がすごかったのね。私にはニコニコしてるんだけど、陰口全部、私に入ってきてるよって。もうちょっと上手に陰口言いなよみたいな先生だったんだけど。私がちょっと意見言ったら、歯向かってきたとか、謙虚さが無いも言われたことあるな。割と私、バシバシ自分の考えを言っちゃうタイプの人だから。だから今の園の環境は合ったんじゃないかな。そのネイティブが２歳の担任以外はみんな男の人だから、いい意味で男の人目線みたいな意見も入るしね。だから男が女がみたいな話にならないし。

T：すごい目の敵にされるって言ってたもんね、今までだと。

H：私、多分、嫌われやすいと言うか。誰に対してもこうなのに。

T：逆に言うと、今年のお局は H ちゃんじゃなかったらこうなってなかったと思う？

H：うーん。私じゃなかったら。いや、誰でも意地悪してたんだろうけど。

T：何で意地悪するんですかね、みんな女の世界のそういう人達って。

H：だから、あれでしょ。自分のストレス発散だと思うね。陰口もそうだし、あの先生は私の目の前で言うことに一種の快感じゃないけど、そういうのを覚えてたような気がせんこともない。あと、既婚子無しってのもあるだろうね。子ども扱い雑なのは。

T：保育者として無いわ。でもそのせいでせっかくの公務員は辞めてしまった訳じゃん、半年で。それはどう思うの？異動するっていう手はなかったの？

H：年度内に異動ができないって言われて。

T：１回休職して、例えば、春から違うとこ。

H：でも、どこかで会うわけじゃない？あと、私はあの時点で、言ったっけ？園長の話。

T：園長が庇ってくれてると思いきや庇ってくれなかったっていう話はコソっと聞いた。

H：立場上、どちらも守らないといけないっていうのはあるんだろうけれども。私が退職の旨を伝えようと思ってこうこうこういうことがあったっていうのを時系列でまとめて、文章に起こす体力がなく、結局、その携帯のメモ書きで残して、携帯見ながらなんですけど聞いていただけますかって聞いてもらったんだけど。それをメモにも取らない、今みたいにボイスレコーダーにも残さない。私は話してる途中から虚しくなってきたの。多分記憶する気がないんだろうなと思って。これを上に報告するつもりはないんだろうなぁと。ここだけの話にするつもりなんだろうなと思って。私が全部話し終わった後に、あの人が言い放った言葉が衝撃的過ぎて。その時点では私まだパワハラがあった無かったで戦おうと思って、まだ籍を置いとけるのであればと思って、まだちょっと公務員にすがりつくじゃないけど、公務員という立場をこのまま捨ててしまうのはもったいないなとも思ってた時期だったんだけれども。私が話し終わって、最初に言い放たれた言葉が、そんだけ言える口あったらまだ働ける、やったんやんか。この人も一緒かと思ってしまって。そういう問題ではないし。言わせてもらうんですけど、これって私はパワハラやと思うんですけどって言って。でも、それで訴えてもいいけど、訴えるのであれば施設長であるこの私になるんやけどって言われて。私を訴えるってことでいい？って言われて。

T：それもパワハラやん。

H：そうではないと思って。市のパワハラの窓口み

たいなのがあって、そこでまた１から話を聞いてもらえるけど、どうする？って言われたんやけど、私が１から話を聞いて欲しかったのはあなただよって。市の人って必ずしも保育の現場にいた人ではないじゃない？その可能性の方が低いじゃない。だからその保育の現場を知らない、園の中であの人がどういう性格か、園長がどういう性格かって、周りの人がどういう性格で、この半年は庇ってくれた先生もいるし、見て見ぬふりしてた先生もいるし、それを見てた中で話すのと、全く知らない外部の人に１から話すのとって全然違うやないですか。だから、それを話に行く元気もまた１から話す元気も何も無くて私。結局辞めることにした。もうどこにも訴えずに、多分これがあれなんだろうなって。今の保育現場の現状というか、社会の現状というか、そうなんだろうなと思って。あの園長の一言が無かったら、私は多分もうちょっとどこかに訴えてたかもしれないし。あの時系列もすごい色々LINE とか見ながら、手帳とか週案見たら、いつ何したって分かるから、大体そういうの見て、この日こういうこと言われたなって。研修の前こういうこと言われたなとか。本当に事ある度に色んなこと言われてて。子ども見ててって言いたくなるぐらい、私の動きを見てたし。

T：しかもあれだよね、保育の仕方もめちゃくちゃだったって言ってたじゃんね、そのお局は。

H：何１つ尊敬ができない。２年目の園の陰口おばさんは保育はすっごい尊敬できる面があったのよ。お歌とかすごかったし、ピアノも上手だったし。お局ね、ピアノは上手だったけど。とりあえず尊敬する所が無いし。その保育どうなのって思うような人。子どもを足で蹴るし。午睡で寝なかった子がいて、でも、この園は子どもと一緒に給食を食べないから、子どもが寝始めてから食べるんだけど。寝ない子がいたらいつまでも食べれないのね。だから、こっちも休憩は取らないといけないから、寝なくても取らないといけないから。寝れなくて。トントンしに行かないといけないけど。だから私が気使って早く食べるじゃんか。トントンしに行ったらその子がずっとお腹を気にしてたから、ちょっといい？って捲ったら蕁麻疹が出てて。その子が教員の机からちょっと離れた所に寝てて。そのお局の名前呼んで、ちょっとこれ見てもらっていいですか、って。子どもを連れて子どもを動かすより先生が来た方がいいやんか。その状況も状況やし。見てもらっていいですか、って言ったらその場から、何？って言われて。これ蕁麻疹やないですかって言って。結構気にしてて痒がってるんです、って言ったら、寝えへん言い訳じゃなくて？って言われて。結局子ども抱っこして連れていって見てもらったら、園長先生に見てもらって、って言われて。下に一緒に下りるっていうこともあったりとか。でも結構鮮明に覚えてるぐらい。

T：あり得んよね。

H：あり得んね。私が絡んだら結構そうなるみたいな。でも本当他の先生もやばいやばいって。私も結構、他の先生にこういうことあってとか言ってたし、聞いてはくれてたけど。他の先生が空いてる時間とかに見に来るようになったら、先生何で来たんですかとか。２人にしない環境をなるべく作ってくれるんやけど、無理な時もあって。３人担任で１人が離れなきゃいけない、それが真ん中の先生やったりしたら、すぐ何か言われるし。その先生がいたら何も言えへんねん。この先生がいたら、私が衛生面でおむつを外に捨てに行くことになって、外に個人のごみ箱があって、そこに捨てて、個人のごみ箱からその日のおむつを親に持って帰ってもらうっていうシステムなんだけれども。だからおむつ捨てに行く時はベランダに出ないといけない。離れるから、おむつのバケツ持って。最初は子どもらに入れてもらいに行く訳にもいかへんし、最初はバンッてバケツにまとめて桶みたいなのにまとめて入れる。子どものおむつの名前見て保育士がそれを仕分ける。桶持って、おむつ捨てに行ってきますって言って。離れた所で子どもたちと体操やってたお局に声を掛けたら、見たら分かります～って言われて。もうさって。嫌みな言い方をいちいちしないと気済まへんねやろなと思って。ほんなん、はいで済む話やんか。そういうのが積み重なった。そういう小っちゃい言葉の。

T：分かる、それは。それが例えば、今の所は大丈夫な訳じゃん、全然。例えば、仕事するのが怖いとかはないよね？それまで。それは大丈夫なの？

H：最初はすっごいビクビクしてたみたいで。ちょっとした対人恐怖じゃないけれども、みたいなのはすごくあって。向こうの園、私は主任の先生のクラスに入らせてもらってて、1歳児の一番手が要るクラスに。主任と組ませてもらってるのもあって、園長と主任だけ私の事情を知ってた。パワハラがあって市の園からここに来たって知ってて。だから主任はものすごく気を使って、ものすごい好きで。私、その話せる方。すごい気を使ってくれてて。ウチ、給食は自分で取るビュッフェスタイルなんやけども、それも若い先生から取るっていうルールを私が来てから取り入れてくれたりとか。ジャパニーズ先輩後輩スタイルは私は嫌いやから、とか言いながら。だから一番年上でスペイン人紳士のウチの主担任、それからネイティブの主担任と日本人の担任が付くんやけれども、それが主任で。スペイン人のネイティブだけども一番年上の長老みたいなおじいちゃんがいつまでも待ってくれるっていう。めちゃくちゃ忙しい時でも待っててくれるみたいな。

T：職場自体にはだいぶ復帰して恐怖みたいなもの

は無くなってきたってこと？

H：だから最初はすごく何に対してもあったけども。すごい褒めて伸ばしてくれる人達。

T：いいね。

H：私、褒めて伸びるタイプなので。あと結構意見も取り入れてくれるし、何かさせてくれるし。これ H 先生もやってみる？とか。この週はここ空いてるんやけど何かしたいことある？とかみたいなのでちょっとずつ恐怖というか、自分の意見言うみたいなのができるようになってきたというか。多分最初すごいおどおどしてたし。私、研修の期間の評価も、もうちょっと遠慮せんと前に出てきていい、もうちょっと喋ってもいいよってなるから。その時は私、前の職場のトラウマと、あと単純に英語力が無かったっていうので、すっごい大人しかったんやけれども。最近はすごい色々言ってるし、言わせてもらってるしみたいなのは、ここで力ついたし、自信も戻ったかなっていうのはある。

T：でも、体調は戻らない？

H：体調は戻らない。だから、これは別に職場がとかではなく、私が患ったのはうつなんだけれども。体の不調はすぐに消えてなくなるものではないみたいで。だから、私の気持ちに拘らず、しんどい時はしんどいし。どんだけ楽しいとはいえ疲れも溜まるし、ハードやし。どんだけ週案が前より楽になったのか、書き物が楽になった、持ち帰る仕事が減ったとはいえ、普段の仕事はハードやし。子ども達は菌いっぱい持ってるし。ましてや乳児クラスやしっていうので、割とそういうのがあったのかなとは。

T：元々、だって体がそんなに強くなかったって言ってたじゃん。それに、この春先のことですよね。

H：元々だし。だから主治医の先生いわく、もうちょっと療養を本当はしてないといけないけれども、と。

T：いきなり働くんじゃなくて？

H：うん。

T：でも、せっかくこの巡り合った良い園を辞めるかもしれないっていうことでしょ、また。

H：どこにも法人を持ってない本当に小っちゃい園やから。事情、園長先生は知ってるし、１回籍を離れてもまた戻してくれるとは思うんやけれども。

T：1 年、休職みたいな。

H：正直、これは私の悩んでる一番のアレなとこなんやけど、私はそれを説明されて分かってて入ってきたけども、手取りが今までの園の中で一番少ない。

T：そうなんだ。いい感じがするのに違うの？

H：そこはすごくびっくりされるんだけど。

T：どんどん落ちてるんだ？給料は。

H：落ちてる。

T：公務員の時は？

H：公務員の時もそんなに良くはなかったけど、全部手取りで 20 いってないけど、今までの中で今の所が一番低い。ボーナスも微々たるものだし。昇給も微々たるものだし。年に何千円とか。だからウチ退職金が出ない。だから正直最初入った時から長くは続けられない所かなとは思ってた。しっかり育休産休制度はあって、だから働いても子どもが生まれて、ちょっとぐらいじゃないかなとは思っていて。正直それぐらいの気持ちで。だから、そこに骨をう埋めますぐらいの気持ちで入ってる訳では私もなかったので。だから正直、こんなすごいしんどい思いして働いて、今もう手取りのほとんどがって言うと大袈裟なんだけれども、少ないとは言えない額が医療費に消えていて。医療費もそんなに安くはないので。このまま続けるのは。時々園に謝って、休みながらっていうのは。貯金もできないなと思って。もしこれで手取りがあとせめて５万多かったら、私は休職して１カ月後復帰してでも続けてたと思う。英語力は付くし、保育も楽しいし。だから最初はお金より環境と思って入ったんだけれども。この歳でこの手取りやばいなと思って。だったらもうちょっと保育士に今拘らなくても、取りあえずもうちょっと本当にそれこそ、子ども生んでパートとかもできる訳じゃんか。資格さえ持ってたら。だから今、別の職種に就いて、環境が良いって言ったって、そこがオンリーワンな訳でもないから、もうちょっと違う所を見たり、違う職種を見たりして、将来のために貯金しても良いのかなって思っているのが現状。

T：仕事が好きなのはすごい伝わってくるけど、現実問題そうだよね。みんな言う、どうやったら続けられますかって言うと、金。だったらやるよ、って。

H：あの責任の重さであの手取りは違う。だって２～３日前もそこの認可の保育園で０歳児亡くなってるじゃん、給食喉に詰めて。いや、もうあれ本当起こしかねないよ。誰でも起こすよ、あれ。子どもなんて限界まで口に突っ込むから。それをむせて、背中叩いて、あれ取れなかっただけの話じゃんか。起こる、起こる。

T：そう思うと、さっきも言ってたけど、この半年、いてくれてよかったですね。彼がね。

H：本当にね。それは思うね。だから、この今、私が保育士辞めるかも、どうしようどうしようって言ってるのも、H が考えて決めたらいいんじゃないって。

T：聞いてくれてるんでしょ、普通に。

H：うん。聞いてはくれてるね。私、今、さっきも会ってきたんだけど、おばあちゃんの余命が今月中っていわれてて、それにも直面してて。でも、身内が亡くなるっていうのも私、初めてで。多分、先週それもあったの。先週、突然、施設から電話がかかってきて、1 週間、ご飯が食べれていないと。状況がよろしくな

いと。先週の月曜日ね。それですごいバタバタ、お母さんと色々あったの。

T : 余計精神的にくるよね。それも言ってる？彼に。

H : 言ってる。でもおばあちゃんの話は本当にあった事実だけ。彼も 11 月末に亡くしてるから。あれは本当突然。入院してたおばあちゃんの容体が本当に亡くなるような病気ではなかったらしいんだけど。だから本当突然で。お別れを言えてないから。私は施設の人にこうやって見守られて、今この 2 週間で本当にどんどん衰弱していってるんだけれども。前喋れてたのに今日喋れてないとか。でも、そういう心の準備みたいなのをさせてもらえる時間があった訳じゃんか。だから余計、彼は気にしないかもしれないけど。私が気にするから。だからそこまで詳しいことは言えてない。会いに行くとか、今こういう状況で。私３月の頭に旅行計画してたんだけど。私ら３月生まれだから、別に欲しい物お互い自分で買うし。別に贈り合うより旅行行った方が良くね？みたいな話合いがあって。私らは１週間違うだけなの。私は彼の１週前だから。だから旅行を計画してたんだけれども、それが怪しくなってきて。だからキャンセルして延期しようかってなって。

T : その話聞いててよかったなと思う。現代的だけども、Twitter さまさまですね。

H : 間違いない。間違いないな(笑)どこで出会ったの、Twitter とは絶対言えないけれども。

T : でも、今はもう身近な所で出会えないんだよね、特に保育士さん達って。アプリとかやってる子もいるけど。俺の、それこそ同期の認定保育園に勤めてた子がいい加減自分の子どもを育てたいんだよねみたいなこと、すご言ってたんだけど。

H : 間違いないな(笑)

T : ただ、その手段がなかったんだよ、僕らが 20 代の頃、実は。そう思うと、素晴らしいなと思うよね。

H : それは思うね。

T : 今、お母さんとかに言えないの？

H : 言えない。研修で会ったとか言ってる。

T : 研修で、どこの研修で。だって、会えます？

H : 先生っていうくくりがあるからそれで誤魔化してやってる。

T : でも、そんなに言えはないじゃん。勉強会っちゃ勉強会だし。今、割と活発だよ、だって表の世界も。

H : そう。だから結局私も東京とか行くのに、私は研修という言葉を使ってるから研修とか、そういう。

T : 他の先生達と会うの？

H : そうね。ネット上で知り合って、今、結構日本中じゃないけど、知り合いがいてって、その人達に会いに行くとか言って。

T : それ、どんな顔すんの？お母さん。

H : 普通に、ふーんって。

T : すごい良いね、だったら。まぁ、健全だと思うよ、出会い方としては。

H : まあね。確かに、Twitter ってまだね。

T : それでいったら、例えば、会って、体の関係になりましょうとかじゃないじゃん。ちゃんと人と人として会ってるじゃん。

H : そうね。それ前提で出会ってないからね。

T : それで、しかも、ちゃんとアプローチしてくれた訳でしょ、彼は。

H : そう。

＜中略＞

H : ○○先生と結構２人で会ってるし。

T : 行けるっちゃ行けるもんね。でも、近いのは良かったね、２人はそれこそ、ちょうど関西だし。

H : めっちゃ近い。正直私、○○さんち行ったことあるけども、彼の家より近いから。

T : でも、思うのが世界がすごい広がったんだろうなと思って。みんなにとって。

H : それは思う。めっちゃ思う。だから、あの時オフ会行って良かったなと思ってて、３月。みんなにね。

T : だって、出会えない友人じゃん、みんな。

H : オフ会で会ったことある、会ったこと無いの信頼度って全然違うじゃん。私、会ったことある人の方が話は弾むし。××ちゃんとか、あんなに仲良くなれたのもそうだと思ってるし。私らもう結構前から LINE で繋がってるから。

T : 全然、心配は要らないですね。そう思うと、関西組、東京組、みんな近所でまとまってるんですね。

H : ☆☆ちゃんとも会うしね、結構な頻度で。

＜中略＞

H : そう。彼の怪我の原因になったバレーボールのサークルに私が連れて行ったんだけども。体育の先生、知り合いにいるんだけど連れて来ていい？みたいな話になって、連れて来たんだけども。保育士めちゃくちゃいるけど体育の先生はいなかった。そこであだ名が先生になり、結構、今そこの輪も広がっていったんだけど。そこではすごい喋るし、男の子同士だとすごい喋るし、○○さんと３人で会ったりとかもしたんだけど。その時も喋るし。彼、Twitter スパッと辞めたのよ。私も同じ時期に辞めようと思ったんだけども、私は辞めれなかった。もっと発信したいことがあったし。私が多分、あの時期に最初だったと思うの。Twitter で休職をしたっていう。私がああやって発信して、そのおかげで結構、××ちゃんとかにも、まだ会ったことないんだけど、お礼言われてたり。◎◎ちゃんとか、あとこれ言わないで欲しいんだけれども、○○さんも有休取ってんの。○○先生にも結構、直接お礼を言われた

りとか、そういう選択肢あるんだっていうことを。

T：休んでいいんだっていう気づきだね。

H：そう。示せたっていうのは大きくて。他の結構、真面目な教員界隈の人とかからも DM が来るのね。だから DM 閉じてないし。私は、ああいう形で発信を続けようと思って。彼に１回、辞めるっていったんだけど､私こうこうこうだから辞められないわって伝えて。だから今は鍵は掛けず、見るんだったら見ていいよっていう感じで。今開いてる状態なんだけども。あの人は出会いじゃないけれども、そういうことのためにアカウントを作っていて、あの人言わないけど、人伝えから何人か聞いてるのは、私の知り合いとも恐らく関係を持ってる。でもそれは私もそうじゃんか。言わないけど、お互い絶対言わないけど。でもその中で、私が良いって言ってくれたとこには自信を持とうかなと思って。逆にあんだけ寄り取り見取りの中で私が良いって言ってくれてるんだったら、それは信じようかなと思って、ていうところではあるね。

T：そうだと思う。前から彼言ってたしね。いや、そう思うと、すごいですね、SNS って。

H：すごいねぇ。私、去年オフ会行ってなかったら、今年１年死んでた。

３、分析・まとめと今後の課題

3-1　キャリア形成に関する分析

本研究で分析対象とするのはこれで８人目であるが、H さんは非常に厳しい事例であった。英語での保育も可能であり、養成機関も認めるほどの実力で公務員試験を難なくパスし、竹を割ったような性格で保育に対する意識が高いにも拘らず、そのような彼女が保育者を辞めざるをえない状況に陥っている。社会全体の損益から鑑みても彼女が保育者でいられないことは損失であり、彼女のような人材を平気で潰してしまうような環境は害悪でしかない。そしてそれでいて保育者不足などと嘆くのは片腹痛い。当然、彼女を追い込んだお局保育士と園長の責任は大きく、本来であれば看過できるものではない。また PTSD やうつを患って性格までも一時期消極的にしてしまった公務員としての保育環境は優秀な彼女を活かしておらず、前稿（４）でも論じたように､やはり変わるべきは彼女達ではない。新人が働きやすい基準で既存職員や職場を再構築する必要がある [1)]。そしてここまで追い詰められた彼女の離職は最早必然であり、公務員をこれ以上続けることは彼女自身を破壊することにもなりかねなかった。その点を鑑みても、置かれた場所で咲くのではなく、咲ける場所を探すための離職を是としなければならない。石の上にも３年という悪しき勤労観によって、ブラック企業に３年勤めれば、搾取されて再起不能に陥ってしまう [1)]。むしろ旧態依然とした保育環境こそが、貴重な保育者を潰し、保育業界を自滅させているとも揶揄できよう。

他方で、彼女の事例から再認識させられたことは保育者それぞれのキャリアアンカーの違いであった。彼女の保育観で重視される行事ごとも、ある人にとっては煩わしいものであるかもしれない。また彼女が求める環境も、万人が求めるものでもないだろう。その点を鑑みても、やはり保育者としての初期は、就活も含めて自らのアンカーが活かせる場所を探すために、積極的な転職やトライアル雇用のような形態を推奨するべき [1)] であろう。むしろこれからの養成機関が重視することは、キャリアラダーを形成できる場所を見つけるためのアダプタビリティであるのかもしれない。それは適応という受動的意味ではなく、自分にとって望ましい場所を模索する融通と柔軟という能動性を含意したアダプタビリティであるだろう。

しかしながらそうした保育者としての明確なアンカーがありながら、彼女は保育者そのものを辞するという決断を下しつつある。これは前稿（４）での G さん同様にライフキャリアを総合的に鑑みた辞職であり、勤労観が欠如しているであるとか、離職は悪だなどと外野が否定することではない。もちろん保育者不足の観点からすれば彼女を失うことは非常に残念ではある。しかし給与面さえ充実していれば彼女は続けたであろうことを鑑みれば、やはり保育者に対する社会的評価を向上させることが望まれる。前述のように、職場環境だけでなく社会そのものが、不足している保育者を増長させる傾向にあることが示唆できよう。

3-2　若者文化による資源とキャリア形成

ただそんな彼女を救ったのが SNS で培った新たな人間関係であった。「Twitter が無ければ、そしてそこで出会った彼氏がいなければしんどかった」と言う彼女は、本来であれば孤立して、より深刻な状況に陥っていた恐れもある。例えば、阪口祐介 [9)] はケータイによって友人関係を維持､深化､拡大させていく一方で、一部の若者はそこから取り残されていく「つながりの格差」が拡大していることを論じる [10)]。もちろん彼女の場合は SNS であるため､阪口の述べるケータイよりもいっそう格差は大きいだろう。だが彼女がそうした格差の勝者であり、リスクも随伴する中で利益を捻出し、有効活用するリテラシーがあったことが、絶望的な状況に浸っていた彼女のセーフティネットを創出したと言えよう。もちろん彼女にはバレーボールという趣味縁 [11)] というつながり、つまり人的資源もあった。またその点を鑑みると、彼女はそもそも社交的であったのかもしれない。だが例えば､乾彰夫と児島功和は、

実証研究を基にしながら子ども達や若者が成長し自立するためには一定の媒介的コミュニティが必要であることに言及している[12]。こうした知見を経れば、彼女の事例からは、社会関係資本を形成する資質が、リアリティショックへ対応するための、今後の養成機関で養うべき資質として浮上したと言えよう。

更に実際の調査からは、そうした資質が彼女へ幸福をもたらしたことも明らかにされた。例えば、木村絵里子[13]は、現代の若者は恋人がいることが唯一生活満足度と関連している[14]と述べる。そして、ときめきやドキドキ感といった非日常性よりも、面白さや、趣味に理解がある、生き方・ライフスタイルが交際相手に求める条件の上位に入っていると指摘する[15]。「タイプでもなかった」という彼氏と彼女の関係性は、木村の論じる通りであり、人間関係の豊かさや資源の活用が彼女を幸福にし、彼女を支えていたことは自明であろう。ただそうした状況は、生育環境も相成って、結婚出産での離職退職を希望する、いわゆる良妻賢母型の結婚観を持つ傾向が強い保育者[4]である彼女のジェンダー観を強化しているようでもあった。

3-3　本稿のまとめと次稿への課題

本稿では危機や岐路に際した保育者が、SNS で培った人間関係に支えられている様相が明らかになり、若者文化が保育者のキャリア形成に肯定的に作用していることが明らかになった。ただ本稿での事例は前稿（４）で述べられたマッチングアプリ[1]ではなく、Twitter のオフ会が契機となっているため、保育者のキャリアの路傍を彩るメディアの多様性も明らかになった。今後は、そうした点も踏まえて、社会関係資本の道具的価値と表出的価値という知見を基に若い保育者達の様相を、詳細に論じていかなければならない。

他方で、そうした若者の性質から、彼女が最初に勤めた場所が母園だったことに着眼したい。例えば、土井隆義は、若者は過剰な選択を迫られる現代を生きる不安を和らげるため、生得的な属性を共有する関係へと拘りがあるとされる。そして血縁にせよ、地縁にせよ、生まれ育った場所に留まり、その組み換え不可能ゆえに固定的で安定した居場所と感じる傾向がある[16]と述べる。彼女が不安を解消するために母園を選んだかどうかは不明であるが、実際に保育者を選んだ理由は血縁者である母の勧めもあり、その影響は大きい。こうした彼女の選択は土井の述べる、生得的なものが自分の生き方を導いてくれ、自由選択に伴う不安を解消する[17]手立てであったのかもしれない[2]。もちろん彼女は現在では母園にさほど拘ってはいないが、人間関係を含め、若者文化のキャリア形成への影響は今後の事例でも分析していく必要がある。加えて、H さんからも調査終了後に「話せたことで色々と整理できた」という言葉を受け取った。質的研究そのものにカウンセリング的な意味合いもあるという仮説[8]に関しても引き続き検討していく必要もあろう。

引用文献

1）玉木博章：指導主体としての保育士・幼稚園教諭のキャリア形成に関する研究（４）―離職と転職に直面する心理的葛藤に生じるジェンダー観と勤労観に着目して―．瀬木学園紀要，16（2020）．

2）児美川孝一郎：権利としてのキャリア教育．明石書店，77（2007）．

3）児美川孝一郎：権利としてのキャリア教育．明石書店，　77-78（2007）．

4）向田久美子：保育者養成学校におけるキャリア教育－男女共同参画の視点から―．駒沢女子短期大学研究紀要，第 48 号，22（2015）．

5）児美川孝一郎：権利としてのキャリア教育．明石書店，　74（2007）．

6）松尾由美：保育士の早期離職を防ぐためのキャリア教育―キャリアプランニング能力の育成を目的とする問題解決シミュレーションの提案―．Informatio：江戸川大学の情報教育と環境，Vol.14，19-22（2017）．

7）松尾由美・松田稔樹：問題解決力を育成するための情報リテラシー・キャリア教育．Informatio：江戸川大学の情報教育と環境，Vol.16，35-38（2019）．

8）玉木博章：指導主体としての保育士・幼稚園教諭のキャリア形成に関する研究（３）―休職と復職に直面した心理的葛藤に生じる誤った道徳観と勤労観の批判―．瀬木学園紀要，16（2020）．

9）阪口祐介：若者におけるメディアと生活の相互関係の変容 2002 年と 2012 年時点間比較．藤村正之・浅野智彦・羽渕一代編．現代若者の幸福 不安感社会を生きる．恒星社厚生閣，169-190（2016）．

10）阪口祐介：若者におけるメディアと生活の相互関係の変容 2002 年と 2012 年時点間比較．藤村正之・浅野智彦・羽渕一代編．現代若者の幸福 不安感社会を生きる．恒星社厚生閣，188（2016）．

11）浅野智彦：若者の気分 趣味縁から始まる社会参加．岩波書店（2011）．

12）乾彰夫・児島功和：後期近代における〈学校から仕事への移行〉とアイデンティティー「媒介的コミュニティ」の課題．溝上慎一・松下佳代編．高校･大学から仕事へのトランジション 変容する能力･アイデンティティ．ナカニシヤ出版，215-236（2014）．

13）木村絵里子：「情熱」から「関係性」重視する恋愛へ 1992 年，2002 年，2012 年調査の比較から．藤村正之・浅野智彦・羽渕一代編．現代若者の幸福 不安感社

会を生きる．恒星社厚生閣，137-168（2016）．
14）木村絵里子：「情熱」から「関係性」重視する恋愛へ 1992 年，2002 年，2012 年調査の比較から．藤村正之・浅野智彦・羽渕一代編．現代若者の幸福 不安感社会を生きる．恒星社厚生閣，165（2016）．
15）木村絵里子：「情熱」から「関係性」重視する恋愛へ 1992 年，2002 年，2012 年調査の比較から．藤村正之・浅野智彦・羽渕一代編．現代若者の幸福 不安感社会を生きる．恒星社厚生閣，158（2016）．
16）土井隆義：「宿命」を生きる若者たち 格差と幸福をつなぐもの．岩波書店，65（2019）．
17）土井隆義：「宿命」を生きる若者たち 格差と幸福をつなぐもの．岩波書店，65-66（2019）．
18）松尾由美・松田稔樹：問題解決力を育成するための情報リテラシー・キャリア教育．Informatio：江戸川大学の情報教育と環境，Vol.16，37（2019）．
19）土井隆義：「宿命」を生きる若者たち 格差と幸福をつなぐもの．岩波書店，69-80（2019）．

注

---

[1] 「あたしとおやこ」のあいうえお作文に基づいて学習している。それぞれ、安全安心な、待遇、信頼できる、透明性が強い、面白い、役に立つ（有効な）、公平な、という 7 観点で成立する [18)]。

[2] なお、土井はこうした傾向を若者の再魔術化と呼んでおり [19)]、宗教や伝統から解放されて自由にはなったが、その反面過剰な選択や自己責任を求められる現代の生きづらさから、逆に脱却したはずの絶対的なものを求める様相を論じている。